

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成24年2月13日
【四半期会計期間】	第43期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)
【会社名】	メック株式会社
【英訳名】	MEC COMPANY LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 前田 和夫
【本店の所在の場所】	兵庫県尼崎市東初島町1番地 同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は最寄りの連絡場所で行っております。
【電話番号】	06(6414)3451(代表)
【事務連絡者氏名】	常務執行役員管理本部長 丸岡 裕征
【最寄りの連絡場所】	兵庫県尼崎市昭和通三丁目95番地 本社事務所
【電話番号】	06(6414)3451(代表)
【事務連絡者氏名】	常務執行役員管理本部長 丸岡 裕征
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第3四半期連結 累計期間	第43期 第3四半期連結 累計期間	第42期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 12月31日	自平成23年 4月1日 至平成23年 12月31日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(千円)	5,350,042	4,837,839	7,049,791
経常利益(千円)	778,298	775,102	877,298
四半期(当期)純利益(千円)	554,968	263,853	136,571
四半期包括利益または包括利益 (千円)	279,425	106,068	91,517
純資産額(千円)	8,547,852	7,709,549	8,176,910
総資産額(千円)	10,947,179	9,834,620	10,521,412
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	27.65	13.15	6.80
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)			
自己資本比率(%)	78.1	78.4	77.7

回次	第42期 第3四半期連結 会計期間	第43期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 10月1日 至平成22年 12月31日	自平成23年 10月1日 至平成23年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	10.69	14.12

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 第42期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、ユーロ圏の金融・財政問題による世界的な景気の停滞、タイにおける洪水の影響等により依然として先行きの不透明感を払拭できない状況にあります。

国内におきまして、東日本大震災の影響から一部回復傾向がみられるものの、世界的な景気の停滞、急激な円高等により先行きの不透明な状況が続いております。

そのような中、エレクトロニクス業界では、スマートフォンやタブレットPC等の販売は堅調に推移したものの、薄型テレビやPCの販売が厳しい状況となり、全般的に力強い需要はみられませんでした。

電子基板業界では、高密度電子基板を含め、全般的に不調となり、エレクトロニクス業界と同様に鮮明な回復傾向には至りませんでした。また引き続き中国や東南アジアへの生産移管と日本国内の空洞化が進行いたしました。

このような状況のもと、当社グループは中国や東南アジアを中心とする海外向けの高密度電子基板用薬品の販売と技術サポートに注力いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は48億37百万円（前年同期比9.6%減）となりました。営業利益は7億12百万円（前年同期比10.7%減）、経常利益は7億75百万円（前年同期比0.4%減）、四半期純利益は2億63百万円（前年同期比52.5%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

日本

日本の電子基板市場は、世界的な景気の停滞、急激な円高等により非常に不透明な状況が続き、高密度電子基板を含め全般的に不調となりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は27億12百万円（前年同期比13.5%減）、セグメント利益は81百万円（前年同期比55.9%減）となりました。

台湾

台湾では、パッケージ基板を中心に比較的堅調な状況が続きましたが、為替の影響により円貨での薬品の販売は微減となりました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は7億54百万円（前年同期比2.2%減）、セグメント利益は3億16百万円（前年同期比2.5%増）となりました。

香港(香港、珠海)

香港では、汎用電子基板の市場の一部で減速傾向が見られ、薬品の販売が減少しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4億50百万円（前年同期比11.3%減）、セグメント利益は1億11百万円（前年同期比13.5%減）となりました。

中国(蘇州)

中国では、汎用電子基板の市場の一部で減速傾向が見られ、薬品の販売が減少しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4億38百万円（前年同期比16.9%減）、セグメント利益は1億43百万円（前年同期比8.2%増）となりました。

欧州

欧州では、業界全体は横ばいの状況にありますが、新規顧客および新規工程の獲得等により売上は回復基調となりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4億81百万円（前年同期比18.4%増）、セグメント利益は77百万円（前年同期比43.0%増）となりました。

(2) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

会社の支配に関する基本方針

基本方針の内容

当社は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する目的を持って当社株式を大量に取得するための株式買付けが行われる場合は、これに対する諾否は、基本的には個々の株主の判断に基づいて行われるべきものと考えております。従って、経営支配権の移動による企業活動の活性化の意義または効果につきましても、何ら否定する立場にはありません。

しかしながら、もっぱら高値での売り抜け等不当な目的を持った買収者により会社買収が行われるような場合には、株主を始めとする各ステークホルダーの利益を守るため、企業価値の毀損の防止を図ることが当社取締役会の責務であると認識しております。このため、株式の大量取得を目的とする買付けまたは買収提案に際しては、買付者の事業計画の内容のほか、過去の投資行動等も考慮のうえ、その買付けまたは買収提案が当社の企業価値および株主共同の利益に与える影響を十分検討し、取締役会としての判断結果を株主に開示する必要があるものと考えております。

現在のところ、当社が把握している限り、当社株式の大量買付け等による具体的な脅威は生じていないものと思われ、また、当社としてそのような場合に備えての具体的な取組み（いわゆる「買収防衛策」）を予め定めることは行っておりません。ただし、株主から負託を受けた取締役会の責務において、当社株式の売買取引や株主異動の状況を注視するとともに、コンティンジェンシー・プラン（買収対応マニュアル）を整備し、株式の大量取得を企図する者が現れた場合には、社外専門家を交えて当該買収者の買収提案および事業計画等の評価を行い、その買収提案または買付行為が当社の企業価値ならびに株主共同の利益に反すると判断したときは、対抗措置の要否ならびにその具体的な内容を決定し、これを実施することがあります。

なお、いわゆる「買収防衛策」の導入につきましても、今後の経営管理上重要な検討課題として認識しておりますので、買収行為に係る法制度や社会動向等を注視し、検討を重ねて行く所存であります。

取組みの具体的な内容

会社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別な取組み

当社では、上記基本方針の実現ならびに株主共同の利益に資するために次のような取組みを行っております。

- (イ) 中期経営計画の推進による企業価値の向上
 - a 世界主要市場における販売力の強化
 - b 最先端基板から汎用基板用途までの製品ラインナップの充実・強化
 - c 環境負荷低減によるビジネスチャンスの拡大 等
 - d 金属と樹脂の接合技術の磨き上げによる新事業分野の開拓
- (ロ) 株主への積極的な利益還元、持続的成長のための中長期投資
 - a 連結配当性向30%を中期的目標として利益を積極的に株主還元
 - b 売上高の10%以上を研究開発費に先行投資
 - c 世界各市場の需要に即応し、世界同一品質を実現する生産設備投資 等
- (ハ) コーポレートガバナンス強化のための多様な取組み
 - a 執行役員制の導入、取締役会のスリム化
 - b 社外取締役の招聘、指名報酬諮問委員会の設置
 - c 取締役任期を1年に短縮
 - d 役員報酬制度の改善（退職慰労金廃止、株式報酬の導入） 等

基本方針に照らして不適切な者によって会社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

該当事項はありません。

前号の取組みに関する取締役会の判断およびその理由

前号の各取組みにつきましては、当社の企業価値および株主共同の利益を持続的に向上させるために実施しているものでありますので、当社取締役会として、いずれも次の各要件に該当するものと判断しております。

- 第1号の基本方針に沿うものであること。
- 株主共同の利益を損なうものではないこと。
- 当社役員の地位の維持を目的とするものではないこと。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動は日本で行っており、その金額は、4億99百万円であります。

また、当第3四半期連結累計期間において、提出会社では、平成23年4月1日付で組織変更を行い、CS技術開発センターをCS技術センターに改組し、顧客窓口としてのカスタマーサポートグループ、技術サポート業務を行うテクニカルサポートグループ、機械・コントローラーのサポート業務を行う機械サポートグループの3つのグループ構成といたしました。

それに伴い、開発業務を研究開発センターに統合し、現在6つのグループが製品開発業務に当たっております。また、研究開発センター内には、研究情報管理を主業務とする技術管理グループ、特許を含む知的財産の管理を行う知的財産管理グループおよび機械・コントローラーの開発業務を行う機械開発グループの3つのグループがあります。

また、金属と樹脂の接合技術をより深化させ、新しい事業分野での新商品の開発を推進するため新事業開発室を今期より設置しております。

このように、研究開発体制においては、テーマの進捗および市場ニーズの変化に適した組織により、迅速かつ柔軟に市場動向に対応できる体制を整えております。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因および経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因および経営戦略の現状と見通しに重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月13日)	上場金融商品取引所名または 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	20,071,093	20,071,093	東京証券取引所市場第一部	単元株式数 100株
計	20,071,093	20,071,093	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日		20,071,093		594,142		446,358

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式			
議決権制限株式（自己株式等）			
議決権制限株式（その他）			
完全議決権株式（自己株式等）			
完全議決権株式（その他）	普通株式 20,069,300	200,693	
単元未満株式	普通株式 1,793		
発行済株式総数	20,071,093		
総株主の議決権		200,693	

（注）「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が900株（議決権9個）含まれております。

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合（％）
計					

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）および第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,873,862	2,621,328
受取手形及び売掛金	1,907,656	1,717,439
商品及び製品	218,376	190,078
仕掛品	50,034	31,504
原材料及び貯蔵品	194,961	180,649
繰延税金資産	114,406	78,027
その他	43,046	55,012
貸倒引当金	18,656	5,733
流動資産合計	5,383,688	4,868,306
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,728,359	2,781,158
減価償却累計額	1,475,620	1,530,236
建物及び構築物(純額)	1,252,738	1,250,922
機械装置及び運搬具	1,437,268	1,550,639
減価償却累計額	1,119,322	1,165,506
機械装置及び運搬具(純額)	317,946	385,132
工具、器具及び備品	559,316	569,682
減価償却累計額	433,130	452,290
工具、器具及び備品(純額)	126,185	117,391
土地	2,815,259	2,773,935
建設仮勘定	49,618	6,607
有形固定資産合計	4,561,748	4,533,989
無形固定資産	37,433	45,099
投資その他の資産		
投資有価証券	422,246	276,787
その他	120,214	114,293
貸倒引当金	3,918	3,856
投資その他の資産合計	538,543	387,224
固定資産合計	5,137,724	4,966,314
資産合計	10,521,412	9,834,620

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	583,172	447,827
短期借入金	480,000	480,000
未払金	204,098	194,047
未払費用	44,037	55,138
未払法人税等	122,070	166,587
賞与引当金	151,000	88,837
役員賞与引当金	-	7,200
その他	186,374	167,566
流動負債合計	1,770,753	1,607,205
固定負債		
繰延税金負債	368,707	301,731
退職給付引当金	99,137	111,226
その他	105,904	104,908
固定負債合計	573,749	517,866
負債合計	2,344,502	2,125,071
純資産の部		
株主資本		
資本金	594,142	594,142
資本剰余金	446,358	446,358
利益剰余金	7,780,948	7,683,523
自己株式	-	12
株主資本合計	8,821,449	8,724,011
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	70,517	2,025
為替換算調整勘定	715,057	1,016,487
その他の包括利益累計額合計	644,539	1,014,461
純資産合計	8,176,910	7,709,549
負債純資産合計	10,521,412	9,834,620

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	5,350,042	4,837,839
売上原価	2,201,623	1,871,526
売上総利益	3,148,418	2,966,312
販売費及び一般管理費	2,350,742	2,253,615
営業利益	797,676	712,696
営業外収益		
受取利息	11,001	13,204
受取配当金	7,881	8,838
投資有価証券売却益	18,149	-
為替差益	6,507	77,137
その他	13,672	10,162
営業外収益合計	57,211	109,342
営業外費用		
支払利息	3,546	3,122
投資有価証券評価損	64,832	38,808
その他	8,209	5,006
営業外費用合計	76,589	46,937
経常利益	778,298	775,102
特別利益		
固定資産売却益	1,511	1,483
保険解約返戻金	1,549	2,744
特別利益合計	3,061	4,228
特別損失		
固定資産売却損	1,944	269
固定資産除却損	7,334	4,107
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,570	-
特別損失合計	11,849	4,377
税金等調整前四半期純利益	769,510	774,953
法人税等	214,542	266,686
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	-	244,412
少数株主損益調整前四半期純利益	554,968	263,853
四半期純利益	554,968	263,853

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	554,968	263,853
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,202	68,492
為替換算調整勘定	274,340	301,429
その他の包括利益合計	275,543	369,922
四半期包括利益	279,425	106,068
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	279,425	106,068
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

【追加情報】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書および前第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)およびのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費	202,808千円	206,066千円
のれんの償却額	5,441	-

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年5月25日 取締役会	普通株式	80,285	4	平成22年3月31日	平成22年6月8日	利益剰余金
平成22年10月29日 取締役会	普通株式	80,284	4	平成22年9月30日	平成22年12月7日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月25日 取締役会	普通株式	280,995	14	平成23年3月31日	平成23年6月8日	利益剰余金
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	80,284	4	平成23年9月30日	平成23年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	日本	台湾	香港	中国	欧州	
売上高						
外部顧客への売上高	3,136,226	771,892	508,068	527,472	406,381	5,350,042
セグメント間の内部 売上高または振替高	685,622	6,224	1,524	147	-	693,518
計	3,821,849	778,117	509,592	527,620	406,381	6,043,561
セグメント利益	185,068	308,800	128,927	132,625	54,488	809,910

2. 報告セグメントの利益または損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額および当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	809,910
セグメント間取引消去	6,792
のれんの償却額	5,441
四半期連結損益計算書の営業利益	797,676

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	日本	台湾	香港	中国	欧州	
売上高						
外部顧客への売上高	2,712,841	754,675	450,876	438,376	481,069	4,837,839
セグメント間の内部 売上高または振替高	580,297	11,517	490	2,465	-	594,771
計	3,293,138	766,193	451,366	440,842	481,069	5,432,610
セグメント利益	81,656	316,404	111,521	143,535	77,936	731,053

2. 報告セグメントの利益または損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額および当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	731,053
セグメント間取引消去	18,356
四半期連結損益計算書の営業利益	712,696

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	27円65銭	13円15銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	554,968	263,853
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	554,968	263,853
普通株式の期中平均株式数(株)	20,071,158	20,071,069

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成23年10月31日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

- (イ) 配当金の総額・・・・・・・・・・80,284千円
- (ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・4円00銭
- (ハ) 支払い請求の効力発生日および支払開始日・・・・平成23年12月6日

(注) 平成23年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月9日

メック株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	芝池勉
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岡本健一郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているメック株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、メック株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。